

令和3年度行政評価 施策評価シート (令和2年度実績)

施策名 新たな文化創造・文化活動の推進

施策コード 5020303

1. 施策の担当	
主管課	市長公室 政策推進課
関係課	

2. 総合計画における位置づけ			
総合計画	政策	第2章 ひとを豊かに育むまちづくり (子育て・教育)	節 第3節 生涯学習・スポーツ
	施策	新たな文化創造・文化活動の推進	

基本方針

- ・子育て世帯や団塊の世代に対して、文化への親しみや文化活動による世代間の交流が持てるよう支援し、その文化の魅力を内外に発信します。
- ・文化会館の管理運営は、最小の経費で最大の効果が発揮できるよう努めるとともに、使用料のあり方等について検討し、利用者の増加に努めます。
- ・利用者ニーズに合った施設の改修整備等を効率的、計画的に行い、施設の利用環境を整備するとともに、利用者の利便性の向上を図ります。

現況と課題

- ・文化会館は築20年を過ぎ老朽化が進んでいくため、計画的に維持修繕、改修を行う必要があります。
- ・貸館利用率はこれまでの10年間においても僅かながら上昇しており、また利用に関する満足度及び自主事業に対する満足度も充足されてきています。今後も引き続きニーズに応じたサービス（催し等）を提供していく必要があります。
- ・令和元年度までは稼働率も安定していましたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症が流行し、拡大防止のための措置を取らざるを得なくなりました。今後、無観客等でも運営できる新たな手法を検討していくことが必要です。
- ・仕事・家事・育児・介護で忙しいことによる文化芸術活動機会の減少が考えられるため、その中で文化会館として催しをどのように企画して取り組んでいくかが課題となっています。
- ・情報化の進展による新しい芸術の創造にも工夫を凝らしていく必要があります。

施策目標

対象（誰を、何を、どこを）

市民

意図（どのような状態にしたいのか）

歴史文化に加え、閑空をあわせつ泉佐野市文化を発信し、都市イメージ・魅力の向上を図ります。空港、りんくうタウン、文化会館を文化拠点として、活用・連携を推進します。

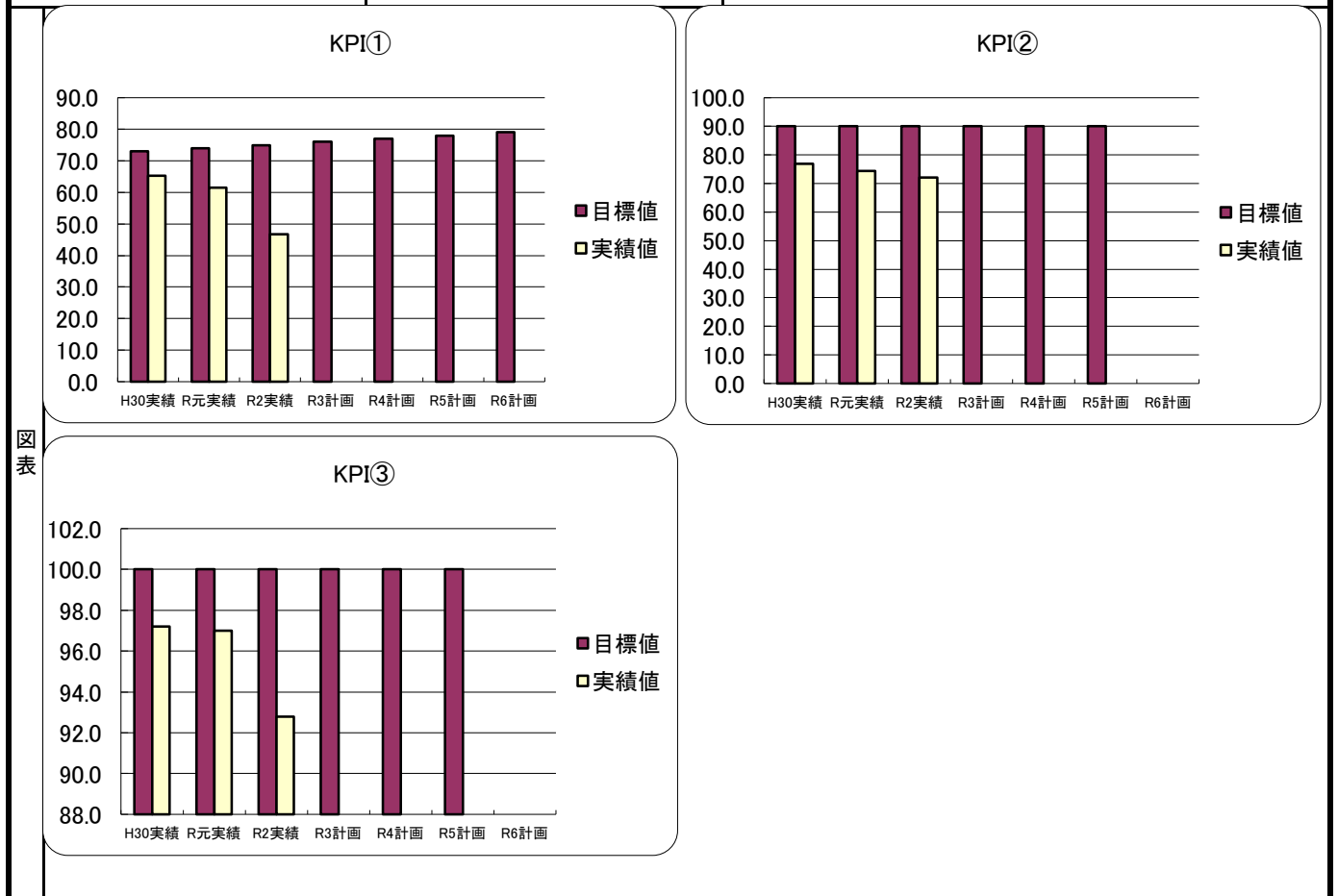
3. 市民ニーズ							
	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
満足度（偏差値）	44.2						
重要度（偏差値）	36.2						

4. 施策にかかるコスト							
	単位	R元決算	R2決算				
コストの内訳	人件費	千円	9,270	7,792			
	事業費		992,066	1,002,481			
	フルコスト		1,001,336	1,010,273			
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0			
	府支出金		0	0			
	市債		0	0			
	その他		1,393	3,568			
	一般財源1（＝フルコスト－特定財源）		999,943	1,006,705			
	一般財源2（＝直接事業費－特定財源）		990,673	998,913			

5. 施策の重要業績成果指標(KPI)							
① KPI 1		文化会館の貸館利用率					
項目	H30実績	R元実績	R2実績	R3計画	R4計画	R5計画	R6計画
目標値	73.0	74.0	75.0	76.0	77.0	78.0	79.0
実績値	65.2	61.5	46.8				
達成度	89.32	83.11	62.4				
KPI設定の根拠		KPI目標数値の設定根拠			目標達成・未達成の理由・背景		
市民の文化拠点施設である文化会館の貸館利用率を把握することにより、市民の文化活動が向上しているかどうかの目安となる。		年間1%の伸びを目標とする。			令和2年度の貸館利用率は46.8%であり、前年度から約21ポイント減となった。これは、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、施設全体において利用率が大きく低下した。		

② KPI 2		文化会館の利用に関する満足度					
項目	H30実績	R元実績	R2実績	R3計画	R4計画	R5計画	R6計画
目標値	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	
実績値	76.9	74.4	72.1				
達成度	85.44	82.67	80.11				
KPI設定の根拠		KPI目標数値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
文化会館の利用に関する満足度の向上により、施設全般のハード・ソフト面において利用者が満足されていることがわかる。また、今後の施設改善をしていくための検討材料となる。		平成21年実績で文化会館の利用に関する満足度78.8%となり、単年度達成率が123.12%となったため、平成22年度より目標値の設定をより高いレベルで見直し。さらに、平成26年度から毎年度90%を目標設定とし、貸館利用者の満足向上をめざす。		貸館利用者満足度について、満足と答えた方は72.1%となり、対前年比で2.3ポイント減少し、目標の90%には達しなかった。（やや満足27.9%、やや不満0.0%・不満0.0%）また、スタッフの言葉づかいの満足度は89.1%、応接態度の満足度は89.1%、説明方法の満足度は84.1%であった。			

③ KPI 3		文化会館の自主事業に対する満足度					
項目	H30実績	R元実績	R2実績	R3計画	R4計画	R5計画	R6計画
目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
実績値	97.2	97.0	92.8				
達成度	97.2	97.0	92.8				
KPI設定の根拠		KPI目標数値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
自主事業の満足度を把握することにより、文化振興事業における市民ニーズ等の動向が把握できるとともに今後の事業手法の検討材料にもなります。		自主事業に対する満足度については、大変良い・良い・普通・良くないの区分で把握。平成25年度までは大変良いの区分を実績値としていたが、平成26年度からは大変良いに加え良いの区分も実績値とし、毎年度100%を目標値とする。		前年度と比較し、4.2ポイント減少しているものの、92%の満足度を得ており、依然として高い値をキープしている。アンケート調査の結果、多様なジャンルの舞台芸術作品の提供を求める意見や芸術性にこだわらず広く市民に親しまれる企画の提供を求める意見が多かった。			



6. 施策の事後評価			
一次評価 (担当課による評価)	判定項目	評価点	評価理由、今後の方向性等
	施策の成果レベル (過去の推移、周辺市との比較なども含む)	(4点中) 1	文化振興事業の自主事業総収支比率は39.2%となった。平成29年4月に稼働率の低い施設(特別会議室・和室・茶室)の料金引き下げを実施するなど対策は講じているが、新型コロナウイルス感染症の影響は排除できなかった。
	施策に対する市民ニーズ	(3点中) 1	館内3箇所にアンケート回収箱を設置し、その結果を貸館利用の改善に活用。また自主事業のアンケート調査については市民ニーズの把握に努め、事業選択の材料として活用している。平成21年度より友の会意見交換会を開催し、会員の生の声を把握することに努め、友の会事業の充実に役立っている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、市民ニーズを捉えることが難しかった。
	施策を取り巻く状況 (法令等の動向、国・府の政策の動向、社会潮流など)	(3点中) 1	平成22年度より5年間財団法人泉佐野市文化振興財団が指定管理者となる。公益法人改革の中で、平成23年4月1日より一般財団法人へ移行。市の財政健全化計画とも整合性をとる。平成28年度より5年間、一般財団法人泉佐野市文化振興財団が指定管理者となる。新型コロナウイルス感染症拡大により、文化に親しむ機会が全国的に失われている。
	合計点	(10点中) 3点	
総合評価	D	施設利用率の実績は、昨年度比14.7ポイント減の46.8%となった。しかし、自主事業に対する満足度(「大変良い」「良い」)は92.8%と昨年度比、若干低下したが、高い割合での推移となっている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症による負の影響を大きく受けたことから、施策を達成することはできなかったが、経営面でいうと、指定管理者の努力により、市からの損失補填は受けることとなったものの、黒字を達成している。	
二次評価(政策推進課・行財政管理課による評価)	D	コロナ禍で、事業の中止・縮小などによる実績値の減少となったが、引き続き目標値の達成に努めること。	
三次評価(理事者による評価)	D	コロナ禍で、事業の中止・縮小などによる実績値の減少となったが、引き続き目標値の達成に努めること。	

7. 施策を構成する事務事業							
	事務事業		R2年度決算額			R3年度予算	一次評価
	予算コード	事務事業名	人件費	事業費	一般財源		
1	01005450	文化会館等管理運営事業	7,792	1,002,481	998,913	0	B
合計			7,792	1,002,481	998,913	0	